

## 土地利用計画

嶽山 洋志<sup>1)</sup>

### Site Planning

Hiroshi TAKEYAMA<sup>1)</sup>

#### 要 旨

人と自然の博物館は設立より10年が経過し、その間、セミナーの充実化やキャラバン事業の実施などの多様な事業展開で一定の成果を上げてきたが、一方で展示のリニューアルなどハード面での課題も浮き彫りになってきた。ここではこれまでの計画を整理し、土地利用などのハードとの対応について検討を行った。人と自然の博物館は大きく①自然・地域交流円滑化センター、②ひとはく生涯学習センター、③スーパーレファレンス&学術標本庫に大きく分かれ、①にはネイチャー・アート・ギャラリーや研究室、図書館などをスーパーフラットに設置し、②では生涯学習院に対応した施設を、③では自然愛好家のための県民ラボの設置などを提案する。

キーワード： 土地利用計画, 生涯学習

#### はじめに

人と自然の博物館（以下ひとはく）は設立より10年が経過し、その間、セミナーの充実化やキャラバン事業の実施などの多様な事業展開を行ってきた。一つの大きな輝ける未来を描くよりも、小さな喜びをたくさん集めることで幸せを掴む成熟社会（ガポール,D, 1972）に、ひとはくらしい小さくて細やかなサービスを、生活者にたくさん提供することができたといえるだろう。特にキャラバン事業の実施は研究者のスタイルを大きく変え、真理を追究するこれまでの研究と同時に、地域の課題に対応した応用研究に取り組む研究員も出てくるようになった。

しかし一方で展示や建築の老朽化というハードの課題が浮かび上がってきており、お客様への安全性や快適性に直結することから、これらの課題に対する解決策の検討は必須である。これまでの計画であれば展示物や建築、その他周辺の土地利用も含めて、カタチの部分を中心とした検討が行われることが多かったが、このネクストミュージアムではハードよりもソフトの検討が中心で、

特に「生涯学習の支援」というテーマを強く推進していくことで合意に至ったことから、それに沿ったハードの有り様を検討していくことが求められる。

ここではこれまでの9校の議論を踏まえながら、特に土地利用のあり方についての提案を整理した。

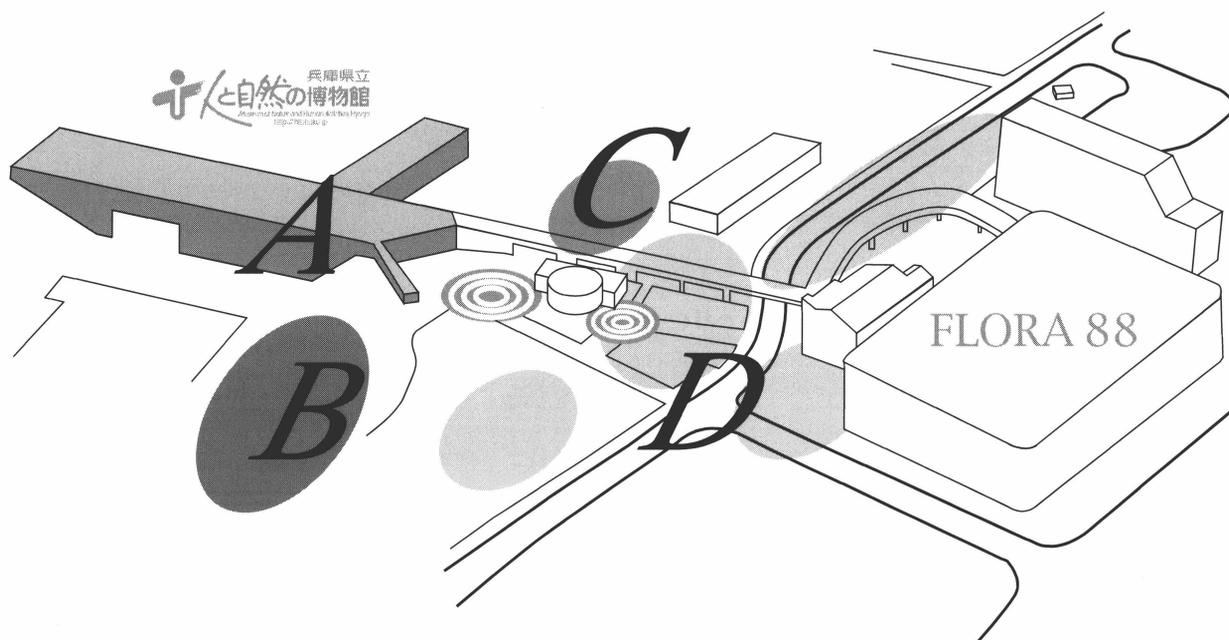
#### コンセプトデザイン

以下に計画に関わるコンセプトワードを示す。

1. 生涯学習を支援する博物館
2. エコネットミュージアム
3. ネイチャー・アート・ギャラリー
4. 使われる収蔵庫と学術標本庫

生涯学習の支援は新展開（人と自然の博物館, 2001）より重点事業として取り上げられ、各種セミナーなど人材育成に取り組んできた。学校という制度を超えて人々の日常的な学習意欲をサポートすることを目指す。エコネットミュージアムは同様に新展開の中で目標として掲げられており、キャラバン事業をベースに地域のエコミュージアムの形成をサポートするとともに、それらの

<sup>1)</sup> 兵庫県立人と自然の博物館 〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目 Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan



■ゾーンA（自然・地域交流円滑化センター）

機能	空間
ギャラリー、参加体験	ユニット展示(キャラバンで収集されたもの、目的展示)
	研究員ボックス(研究員を展示として扱い、来館者との交流を図る)
	チャレンジショップ(学生や高齢者によって行われるミュージアムショップ)
	観覧車(星空観察・夜の虫)
	展示物作成工房
	ネイチャー・アート・ギャラリー
移動用大型車の保管	大型トレーラー、大型車庫
講義、実験、研究	講義室、実験室、研究室
宿泊	宿泊施設(10部屋)
図書閲覧	巨大図書館
資料・情報バンク	使える収蔵庫
遊び学習	化石トロッコ(地学系収蔵庫と深田公園をレールで結び、トロッコに入った調査済化石で子ども達は遊ぶ)

■ゾーンB（ひとはく生涯学習センター）

機能	空間
生涯学習に関わる講義や実験	講義室、実験室、AVルーム
	ワークショップスペース
	スタジオ・アトリエ
	ラウンジ、事務スペース
屋外実験	ジーンファーム、実験農地
遊び学習	プレイパーク 巨大スクリーン(屋外映画)

■ゾーンC（スーパーレファレンス&学術標本庫）

機能	空間
学術的価値の高い資料の保管	学術標本庫(地下) 情報ロボット
スーパーレファレンス	実験室、レファレンス用標本 県民ラボ

■ゾーンD（フラワータウン駅周辺）

機能	空間
フラワータウンの顔(seventh park)	ジーンファーム・パーク パブリック・アート・サイン THE GREAT WALL 自転車ボックス ひとはくロード 屋上ガーデン ダイエー博物館

■有馬富士公園

機能	空間
生涯学習のフィールド	演習林(里山管理の手法開発) 遊びの王国(プレイリーダー育成) 棚田(農業従事者育成) 有馬富士(山登りによる健康増進) 福島大池(市民のボートレースによる達成や到達) 古民家(建築技法の習得) その他生涯教育関係のフィールド
講義や実験	生涯学習センター
宿泊	宿泊施設(10部屋)

図1 土地利用計画

「目次」として機能するひとはくを目指す。ネイチャー・アート・ギャラリーでは美術館的な要素で人と自然を繋ぐギャラリーを目指しており、建築では視覚的な統一性だけでなく、研究員と来館者との関係においてもスーパーフラット化を目指す。使われる収蔵庫では、現存する資料を一般に公開して良いものと悪いものとに分類し、イベントやセミナーなどで積極的に資料を活用していくことを目指す。また、学術的に価値が高く、県民の共有財産として大切に保管すべき資料は、プロとしてその保管に尽力を注ぐ。

## 土地利用計画

### ゾーンA（自然・地域交流円滑化センター）

ゾーンAは、アート性の高いギャラリー機能、キャラバンに対応した移動用大型車の保管機能、講義・実験・研究機能、宿泊機能、図書閲覧機能、資料・情報のバンク機能、深田公園を中心にした遊び学習機能といった7つの機能を有した自然・地域交流円滑センターとして位置づける。

具体的な空間としては、最も大きなスペースをもつネイチャー・アート・ギャラリー（石田弘明，2004）で、これはキャラバン事業によって収集された資料をもとに、アート性の高い空間を有する。また、研究員と来館者との垣根をなくし、常に交流が図れるようフロアに研究員の研究ボックスを設置する。研究員はそこで普段の日常的な仕事を行いながら、気が向けば来館者にギャラ

リーの資料を用いて解説を行う。このように展示物は一般来館者にとっての展示であると同時に教材としても使われる。従ってこれまでのセミナー室は存在せず、展示フロア全体がセミナー室としてスーパーフラット化される。このようなギャラリーの製作やインタープリテーションには生涯学習院の学生やアーティストが参加する。そのための工房を地下に設置し、展示更新の動力源とする。また、キャラバンで持っていく展示物もここで作成するため、大型トレーラーが入ることが出来る車庫も併設する。さらにミュージアムショップやレストランなども、彼らにとってのチャレンジショップとして位置づける。

博物館の夜間開館は現在も試行しており来館者数も多い。夜のセミナーの充実を図るため、観覧車を設置する。夜の虫に関わるセミナーや星空観察に用いられる他、日常的にはカップルやファミリーの休憩施設として使用される。泊まり込みのセミナーは「セミの羽化の観察会」など夏休みに特に多い。博物館の中に宿泊することは一つの魅力であり、そういった楽しさを体験できる宿泊施設を設置する。

その他、レファレンスルームを強化し図書館を設置するとともに、本館と収蔵庫に囲われた深田公園では、地学系収蔵庫とレールで繋がれた、調査済の鉱物が入ったトロッコが設置される。子ども達はそこで宝物を探すかのように、鉱物を手にとって遊ぶ活動を誘発し、遊びながら学習できる環境の場を設える。



写真1 職員が働いているところをそのまま来館者にみせているチョコレートファクトリー



写真2 ガラス張りによる空間の連続性が感じられる石川県立恐竜博物館



写真3 図書館・絵画展・学習室などを一つの景として捉える能登川町立博物館

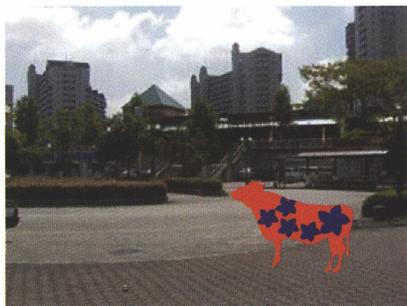


写真4 ワークショップによるサイン計画で出現した牛のパブリックアート



写真5 子供の誕生を記念して作られた封入標本で出来る「THE GREAT WALL」



写真6 フラワータウン駅に設置された折りたたみ自転車を入れる自転車ボックス

### ゾーンB (ひとはく生涯学習センター)

ゾーンBは生涯学習院の本館として位置づけ、講義や実験に関わる機能を屋内外で展開する。設置場所は、現在円形広場となっている場所とし、建築物は深田公園やフラワータウン駅周辺からの景観を損なわぬよう、地形に埋め込む。

具体的な空間としては、生涯学習に関わる講義を行う講義室や実験室、AVルームを設ける。また、学生や住民がワークショップを行うスペースを設け、多様な交流が発生するよう配慮する。さらに、料理教室やデッサンなど、ひとはくの専門以外の領域と協働で講座を組むことで、新たなサービスを展開していくために、調理場やアトリエ、スタジオなどを設置する。

一方、屋外ではこれまでのジーンファームを充実させるとともに、体験型の農場、ピオトープを設置および活用する。また、深田公園では巨大スクリーンを設置し、夏休みにおける屋外映画やフェスティバルにおけるイメージスクリーンとして活用する。

### ゾーンC (スーパーレファレンス&学術標本庫)

ゾーンCは学術的価値が高く将来にわたって保存すべき資料を保管する機能と、レファレンス機能の2つの機能を有する施設として位置づける。

具体的な空間としては、温度や湿度の影響を受けやすい貴重な資料を保管するため、地下に学術標本庫を設置し、その中には資格を持った人間しか入ることが許されない。しかしながら、一般市民にとっては非常に興味のある空間であるので、無人ロボットで施設内を探検するシステムをつくる。スーパーレファレンスでは、特に自然愛好家が中心となって利用する。そのため高度な機材を活用したり研究員の助手として活動したりすることが考えられる。そういった自然愛好家が集え研究できる県民ラボを設置する。

### ゾーンD (フラワータウン駅周辺)

ゾーンDはひとはくへのエントランス機能(フラワータウンの顔)として位置づけ、7つのパーク(seventh park)をフラワータウン駅からひとはくのエントランス付近にかけて、一体的に整備する。

具体的には、ひとはくのエントランスは「ジーンファーム・パーク」とし、カザグルマなどを基調としたガーデンパークを展開する。また、駅を降りた時点からストーリーを持たせるサイン計画(「パブリック・アート・サイン」)を行う。具体的には、ワークショップによって人々を誘導するサインを制作する。ただのサインではつまらないので立体の動物をつくり、サインをたどると博物館にたどり着くことができるようにする。また、駅前や橋の下の様々な隙間に放置自転車が多々見受けられるが、

この状態はフラワータウンの顔としてふさわしくないと思われる。一方、三田市には折りたたみ自転車の製造を生業にしている生活者が存在するが、その自転車を入れるうすいロッカー「自転車ボックス」を駅に設置することで、現在の放置自転車は解消されるのではないかと。

「The Great Wall」は地域との結びつきを復活させる、「誕生」の壁である。生活者は子どもが誕生したとき、ひとはくセミナーで封入標本をつくり、中に誕生を記念するものを入れる。生まれたときの写真、子どもの名前、へその緒を入れてもいいだろう。それらをひとはくのスタッフが敷地に積んでいき、壁を形成していく。この壁の出現によって、誕生ということを経験する習慣が生まれるかも知れない。

その他、ひとはくの屋上は緑化され、フットサルやビアガーデンなど多様な活動を受け止められるポイドな空間「屋上ガーデン」や、異業種間交流によって連携が芽生えはじめているFLORA88やダイエーとともに、フラワータウンの生活文化をコンセプトに据えた「ダイエー博物館」を形成する。

以上のスポットとしてのパークとともに、それらを繋げるひとはく前の道を「ひとはくロード」と名称づける。特に地面に化石を埋め込んだり、橋脚を水槽にしたりするなどして、地区のイメージづくりを行う。

### 有馬富士公園

有馬富士公園は生涯学習の屋外フィールドの一つとして位置づけ、講義や実験、宿泊機能を有するものとする。具体的には、演習林では里山管理の手法を、遊びの王国ではプレイリーダーの養成を、古民家では建築技法の伝授をといったように、有馬富士公園内に存在する多様な環境資源を活かした生涯学習のフィールドとして位置づける。

## おわりに

これらの計画は一見詰め込みすぎのようなイメージをもたれるかもしれない。これらは一気に作り上げてしまうものではなく、生活者とともに長い時間をかけてゆっくりと作り上げていくものであると考えている。学びから実践へ。この未来のひとはくで志を共にする仲間ができることを楽しみにしたい。

## 文 献

ガボール,D (1972). 成熟社会—新しい文明の選択—. 講談社.  
兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県教育委員会 (2001) 「人と自然の博物館の新展開」. 37p. 兵庫県教育委員会.